

12～15歳(小学6年生の一部～中学3年生)のお子さんと保護者の皆さまへ

新型コロナウイルス ワクチンについて

～子どもへの接種に対する考え方～



新型コロナウイルスワクチンは、これまで医療従事者や高齢者から接種が始まり、基礎疾患（持病）きそしっかんのある方、一般成人へと接種が進んでいますが、今年6月から12～15歳（小学6年生の一部から中学3年生）にもワクチン接種が承認されました。

ワクチン接種にあたっては子どもさんも保護者も、(1)ワクチン接種を受けるメリットとデメリット、(2)ワクチンを受けない場合のリスクを十分に理解することが大切です。

子どもへのワクチン接種については、さまざまな情報があって迷われると思いますが、ここでは日本小児科学会・日本小児科医会でまとめた考え方についてQ&A形式で説明します。

**1**

健康な子どもにもワクチンは必要ですか？



デルタ株に置き換わって流行が拡大していく中で、健康な子どもでも入院が必要なケース、中には集中治療が必要な重症例も稀に見られるようになりました。それを防ぐワクチンの接種は意義があります。

又、ワクチンだけで感染を完全に防ぐことはできませんが、周囲の人にうつしてしまう恐れも少なくなりますので、身近の人たちを守ることに繋がります。

**2**

子どもにもワクチンの効果はありますか？



海外で12~15歳の小児にファイザー社のワクチンの治験が行われ、ワクチンを2回接種した1,119人では、新型コロナウイルスに感染した人は0人でした。一方、ワクチンを接種しなかった1,110人では、18人が新型コロナウイルスに感染しました。

同じく海外で12~17歳の小児にモデルナ社のワクチンの治験が行われ、ワクチンを2回接種した2,489人では感染した人は0人、接種しなかった1,243人では4人が感染しました。いずれのワクチンの場合でも、接種後には高い抗体価が認められました。

これらの結果から、ワクチンの予防効果が高いことが期待されます。

**3**

ワクチンは安全ですか？ 副反応の心配はありませんか？



副反応については、上に述べた海外での小児への治験においては、8~9割の人に接種した腕の痛み、5~7割の人に倦怠感（だるさ）や頭痛、2~4割の人に悪寒（寒け）や筋肉痛、1~2割の人に38℃以上の発熱が見られると報告されています。若い人ほど、また1回目接種後より2回目接種後に副反応が見られやすい傾向があります。いずれの症状も接種の翌日に一番症状は強く、ほとんどの場合は2~3日で回復しますが、日常生活に支障がある症状が続くときは医師に相談してください。

非常にまれに接種直後にアナフィラキシーという重いアレルギー反応が起こることがありますが、適切に対応すればほとんどの場合回復します。これに対応するため、接種後15~30分間は接種会場で様子を見る必要があります。

また、若い人はワクチン接種に際して（特に接種直後に）注射への不安や痛みによる

心理的影響等で、顔面蒼白がんめんそうはくになったり失神したりすることがあります。注射や採血で気分が悪くなったことがある方は要注意なので、接種後にすぐに立ち上がらないようにしてください。また横になった状態で接種を行うこともできますので、申し出てください。

まれですが、ワクチン接種後1週間以内に、心筋炎しんきんえんや心膜炎しんまくえんの発生が報告されています。ほとんどは軽症であるとされていますが、胸の痛み、動悸どうき、息切れ、呼吸困難（息苦しさ）などが見られた場合には、速やかに医師の診察を受けてください。

Q4 子どもに基礎疾患がありますが接種できますか？



A 慢性の呼吸器の病気、慢性の心臓病、慢性の腎臓病じんぞうびょう、神経の病気、重症心身障害（脳性麻痺のうせいまいひなど）、染色体の異常（ダウン症候群など）、免疫力が低下する病気、高度の肥満等の場合は新型コロナウイルス感染症により重症化のリスクが高くなると考えられています。ワクチンにより感染や重症化を防ぐことが期待されますので、むしろ積極的に接種することを考えて、基礎疾患の診療をしている主治医の先生に相談してください。

Q5 ワクチンを接種したら、マスクは要らなくなりますか？



A ワクチンは重症化を防ぐ効果は非常に高く、発病を防ぐ効果も高いのですが、感染そのものを防ぐ効果は限られています。知らないうちに感染し、症状がないのでそれに気づかず、周囲の人にうつす恐れがありますので、接種後もこれまで通りマスク等の対策は続けてください。

Q6 ワクチンの種類は何ですか？



A 現在日本では12~15歳の小児に認可されているのは、ファイザー社製のワクチンと武田/モデルナ社製のワクチンです。どちらも有効かつ安全なワクチンで、2回の接種が必要ですが、接種するワクチンは同じ種類のワクチンです。接種できるワクチンの種類は、市町村で決められていますので、前もって確認してください。





ワクチン注射は痛くありませんか？



ワクチンは通常、上腕（二の腕）上部の筋肉に接種します。痛みの感じ方は個人差がありますので一概には言えませんが、採血に使う針よりもうんと細い針を使うので、接種時の痛みはそれほど強くありません。

心配し過ぎないで、緊張せず落ち着いて受けてください。



個別接種と集団接種の違いについて教えてください。



個別接種では医療機関（病院、診療所）でそれぞれワクチン接種を受けますが、集団接種では自治体（県や市町）や職場が接種会場を設営し、多くの人に接種します。個別接種では接種に関してきめ細やかな説明や対応が可能で安心して受けられること、自分の状況をよく理解しているかかりつけ医

で接種可能な場合があることが利点です。しかし接種可能な医療機関が限られること、必ずしもかかりつけ医でワクチン接種が実施されているとは限らないことがあります。一方集団接種では大規模に実施できるため接種が早く進むことが利点です。

自治体により実施方法が決まっていますので、個別接種、集団接種が選択できないところもあります。お住まいの市町での実施方法をご確認ください。

特に集団接種の場合、ワクチンについての疑問や不安がある場合には、事前にかかりつけ医にご相談ください。又、接種後の体調の変化が心配な場合にも、ぜひかかりつけ医に診てもらってください。

以上のことを参考にして、ワクチン接種を受けるメリットとデメリット、ワクチン接種を受けない場合のリスクなどを十分に考えて、接種を受けるかどうかを慎重に決めてください。



お問合せは

接種の予約・手続きの方法などについては、
お住まいの市町村の接種相談窓口にお問い合わせください。